

用語の説明

第3章

高水敷：河道のうち、普段は水に浸からないが、洪水時のみ水が流れる部分をいう。

干潟：満潮時には冠水し、干潮時には干し出しする海岸あるいは河口の砂泥地。

汽水域：海水と河川水が混在する河口付近の領域。

そうりゅうりょく

掃流力：河床沿いまたは河床近くを運動する物質を動かす力。

低水路：平常時に水が流れている部分で、平均低水位（平均水位より低い水位だけを平均した水位）より低い位置にある。

セグメント：川でほぼ同じ勾配をもつ区間の集合。川の地形は水の流れる勾配に左右されます。勾配が変わると水流の速さが変わり、侵食・運搬・堆積のバランスも変わります。このため、ほぼ同じ勾配を持つ区間では川の地形や河床材料（川底の石や砂）の特徴がだいたい似てきます。

群落：同一場所で、ある種の単位性と個別性をもち、一緒に生活している植物群を示す操作的・便宜的な植生の単位。その大きさや広がりについて特に規定は無い。

群集：特定の種組成・生育条件及び相観をもち、植物社会学的群落分類における基本単位。

草本：木部があまり発達していない草質または多肉質の茎をもち、地上部は多くは1年で枯れる植物体。しかし、地下茎が発達して二年生・多年生のものや常緑葉のものもある。

木本：茎及び根において肥大成長により多様な木部を形成し、その細胞壁の多くが木化して強固になっている植物。

海浜植生（海岸植生）：海岸地の塩分を含んだ砂質土壌や潮風などの影響の下で生育している植物群落で、強い風・乾燥・塩分・飛砂などに耐える植物が優占する。

塩沼植生：耐塩性の多年生草本植物。

浮遊懸濁物質：水中に浮遊している粒子や生物体、またその遺体のこと。

冠水頻度：繰り返して水に浸かる回数。

付着藻類：水中の構造物、岩、石礫、動植物などの表面に付着して繁茂する藻類をいう。

冷水性の魚：10 付近の水温が適温で、約25 以上の水温では生存できない魚。

ていせいどうぶつ
底生動物：水域で岩などに固着したり、砂泥中に潜入したり、あるいは水底上を這い回ったりして、水底から離れることなく生活している動物のこと。ベントスともいう。河川では、水生昆虫、貝類、カニ類などがこれに該当する。

たんすいいき
湛水域：滞留した水でおおわれたところ。

止水域：池や沼など、流れのない水域。

回遊魚（通し回遊魚）：ある定まった発達段階で海と川の間を往き来する魚類。

汽水・海水魚：汽水または海水に生息している魚類。

河川形態：河川を蛇行区間における瀬・淵の状態と瀬から淵への流れ込み方から分類し、その組み合わせにより河川の形態を表現したもの。

B c：1 蛇行区間に瀬と淵が1 つずつ出現し、なめらかに流れ込み、ほとんど波立たない河川形態型。

B b：1 蛇行区間に瀬と淵が1 つずつ出現し、なめらかに流れ込むが、波立つ河川形態型。

B b - B c：河川形態型が、B b から B c へ移行する型。

せんい
遷移（生態遷移）：ある群落別の群落によって置換され、最後には安定した群落になるまでの一連の変化。

かくらん
攪乱：かき乱すこと。生物群集や個体群を構成する生物の組成や生物間の諸関係を破壊したり、生息場所の無機的環境をも変える時間的・空間的に不連続な出来事。攪乱の原因には、山火事、台風、干ばつ、森林の倒木などがある。

きょくそう
極相：遷移の結果、最終的に到達する植生。

動的平衡状態：変動する環境要因によって、多少の変化を示しながら、永続する性質。

高木：樹木の中で、幹と樹冠（樹木の上部の枝葉の広がり）の区別がはっきりしており、寿命が長く、低木より樹高が大きくなるもの。高木と低木の樹高による区別にはいろいろの説があり、人間の身長より高いものを高木とするともいわれているが、常識的に樹高4～5mをその境界としている。

低木：高木を参照。

沈水植物：水生植物の一つで、根は水底に固着し、茎や葉は水面下にあるものをいう。

浮葉植物：水生生物の中で、根は水底にあり、葉柄または茎を水面まで延ばして、葉を水面に浮かべるもの。

浮水植物：水生生物の中で、根は水底におろさず、水面を漂うもの。

抽水植物：水生植物のうち、ヨシ、ガマ、マコモなどのように、体の一部が水中にあり、一部は空中に出ている大型の植物のこと。

湿性植物：湿潤な水辺や湿原に生育する植物。

1年草：発芽し、夏から秋にかけて開花結実し、その年のうちに枯死する草本。

多年草：発育の繰り返しが何年にもわたる草本。

不安定帯：河川の水際に近く、毎年のように洪水の被害を受ける場所。激しいときには植物はほとんど流失して、裸地となってしまう。植物では主に1年草が生育し、出水の少ない年には、貧弱な群落をつくる。

安定帯：河原の中で、洪水による破壊をあまり受けないか、多少受けても減水後、速やかに元の状態に回復する地帯。多年生植物が多く生育する。

偏向的極相：人為などで群集の一次遷移系列が歪められて安定した極相。

河畔林：河川の水際や河川沿いに存在する樹林をいう。一般に、平野部の蛇行河川に沿った樹林帯を河畔林と呼ぶ。

潜在自然植生：現存植生・原植生に対する新しい第三の植生概念。今、人間の影響を一切停止したとき、その立地に生じると判定される自然植生。ここで、現存植生とは、現実にそこに存在している植生、原植生とは、人間が植生に影響を加える直前までの自然植生。

今日的潜在自然植生：自然因子については現在の条件を変えずに、人為的な活動のみを止めたときに出現する自然の植生